

祝 創立 70 周年  
令和 2 年度 10 月号



# 咲かせよう大正の花

## つなげよう大正の未来

台東区立大正幼稚園

HP: <https://taito.ed.jp/swas/index.php?id=1380011>



なんでも食べてみよう！

園長 北村 恵

地域の人からいただいた鈴虫が「リーンリーン」と涼しげで素敵な音を一日中奏でています。絵本コーナーにケースを置いていますが、子供たちが遊んでいるにぎやかな声に負けないほど大きな声で鳴くので、うさぎ組の子供たちは「これ何が鳴いてるの？セミ？」と、不思議そうにのぞき込んでいます。セミと間違ふほど大きな声だったのですね。ナスや市販のえさも、あっという間になくなってしまいます。これだけ元気に食べているので、大きな鳴き声が出せるのかもしれない。

9 月、例年よりはだいぶ遅いスタートですが、3 歳児の弁当が始まりました。二人ずつ座るので、テーブル 10 台をにんじんホールに並べます。その様子はなかなか壮観です。始まったばかりの弁当でも、野菜や肉、魚、おにぎりなどがバランスよく入っていて、それを最後まで完食する子供がほとんどです。うさぎ組の子供たちがよく遊び、エネルギーに溢れているのも、何でもしっかり食べるからだ、納得しました。

9 月から公立幼稚園では週に 1 回の給食が始まりました。一足早くスタートした 4・5 歳児が、様々な食材に戸惑っている様子を見ていたので、うさぎ組はどうかな、と心配していましたが、ハムスターの形の弁当箱に「わーい！」と大喜びし、5 歳児と同じ量をパクパクとたくましく食べていました。しかし、どの学年でも共通して気になる姿がありました。ミニトマト、春巻、チーズなど、単品のもものは食べやすいので、先に食べてしまいます。けれども、肉や野菜と一緒に炒めたり煮たりしてあるものは箸が進みません。いろいろな食材が混ざって作られている料理に苦手意識があるようです。考えてみると、普段の弁当も単品で出来ているものが多いようです。朝ごはんや夕ご飯はどうでしょうか？様々な食材が入って料理されているものは、小学校給食ではよく出ます。学校に行って急に食べられるようにはなりません。様々な食材や調理法に少しずつ触れておくことが大切です。

最初はなかなか食べ進まなかった幼児も、回を重ねるごとに、友達の様子に刺激を受けて、苦手なものを食べてみようとしたり、完食は無理でも、全てのおかずを口にしようとしたりするようになっています。実はこれも、とても大事な「学びに向かう力」なのです。

苦手でもチャレンジしてみようとする力、友達の姿に刺激を受けて自分も食べてみようとする力、食べきった自信や達成感などは、小学校以降の学びに向かう力につながっています。一日 3 回の食事は、365 日で 1095 回になります。小さな一歩は積み重ねると大きな蓄積になりますね。

苦手だから食べさせない作らない、ではなく、苦手なものも好きなものと一緒に炒めたり煮たりしてみる、においをかいでみる、なめてみるなど、できるといいですね。自分で調理する楽しさで苦手を克服できることもあります。いろいろチャレンジして、小さな達成感を積み重ねていきましょう。